



兵庫ダンプ

建交労兵庫ダンプ支部機関紙

第84号

2014年8月1日

全日本建設交運一般労働組合
兵庫ダンプ支部
電話：078-652-0467
神戸市兵庫区駅南通3丁目4-33

車持ちダンプ運転手が1日労働(8時間運転)して貰える単価(全国)

国土交通省積算単価を踏まえて(全国平均：平成26年4月)

| 数量 | 単価 | 金額 |
|----------|-----------------------------|---------------|
| 軽油 | 96L | 1,344円 |
| ダンプ損料 | 1,260万円、10年(標準使用年数) | 22,320円 |
| タイヤ損料 | 道路事情(普通の道路の場合) | 1,463円 |
| 諸雑費(まるめ) | | 3円 |
| 運転手労賃 | 2省協定平成26年4月一般運転手(全国平均の労務単価) | 16,360円 → (1) |
| | | 53,010円(直工費) |

<直接工事費に関する内訳>

- 軽油の単価は、(財)日本エネルギー経済研究所・石油情報センターの全国平均を使用(スタンド渡し)使用量については、国の標準積算は8時間労働、ダンプ運転時間は5.9時間、71L/日で計算しています。組合員の現場の実態は10時間拘束8時間運転になっています。
※実際組合員の平均消費量の96Lで計算しています。(実際は現場の工事内容によって異なります。)
- ダンプ損料は、積算は変更され、標準使用年数が10年になりました。1,260万円が基礎価格です。
- タイヤ損料費は「普通」の単価として出しています。(変更有)
(現場から処理場(移動先)までの道路事情の事を差しています。)
【普通とは】路面がよく維持されている砂利道、これに準ずる縦路の進行。(1,180円×1.24=1,463円)
- 運転手労賃は、2省(国交省、農水省)公共工事設計労務単価を適用。
「2省協定単価とは」前年度元請・下請業者が労働者へ支払った賃金台帳に基づき、調査した結果の良質サンプルの平均賃金を公共工事の積算に適用する労務単価。

<間接工事費に関する内訳>

車持ちダンプ運転手がもたらえる諸経費の計算内訳

●53,010円(直接工事費) + 間接工事費に含まれる金額(労働者の雇用に伴う経費：法定福利費、労務管理費、安全管理費など)を加算し、昨年度から積算の基準に用いられました。車持ちダンプ労働者は自らが必要経費(法定福利費等)の全額を負担しています。したがって、労働者の雇用に伴う必要経費として上積みされている経費41%を請求する計算式を組み立てました。

(1) 労働者の雇用に伴い必要な経費(労務費+その他の人件費=必要経費) 41%
福利厚生費等現場作業における経費の41%を加算します。
16,360円×41%=6,708円を加算します。

53,010円(直接工事費) + 6,708円(間接工事費) = 59,718円

車持ちダンプ運転手がもたらえる単価は、上記金額に消費税(8%)を加算する。

実働8時間稼働 平均64,495円(落札率は加味せず)

第21回ダンプキャラバン参加

7月17日(木)に第21回ダンプキャラバンに参加しました。この日は、大阪市・ネクスコ・国土交通省近畿地方整備局の3か所要請行動を行いました。今だ3万円代の単価で就労する方もいます。毎年行われますが、目に見える成

果はほんのわずか。この場は実際の運転手さんも参加していただき、現場の生の声を聞いてもらいました。発注者は、単価は出していると解答していましたが、実際末端に受けわたる単価とは、差がありすぎます。燃料の高騰、消費税8%と経費は

注者は、現場の実態を調査して下さいと、要請してきましたが、本当にこのような声を切実に受け止め対応してほしい。

上がります。そんなと燃料代は、発注者に見てもらいたいです。

大阪市(上)とネクスコ(下)に要請



山記

▼8月になり厳しい暑さが続きます。熱中症対策はされていますか？近年増え続ける、熱中症は死亡にまで行くケースも、増え続けています。▼30年前だと70件ほどだったのが、近年では2000件近くにまで上っている。これは、地球温暖化の影響もあり、年々気温が上昇。▼時期では、6月〜8月がもつとも多く特に乳幼児と高齢者の死亡が目立つ。▼乳児や幼児は、大人より新陳代謝が活発で体温が高いのが特徴です。しかし大人と比べて、汗腺の発達が未熟なため、うまく体温調節をすることができません。炎天下の車の中など、体温よりも周囲の温度が高くなる場所では、短時間で体温が上昇し、生命に危険が及びます。▼高齢になると脂肪がつきやすくなる分、身体の中の水分の割合が少なくなります。同じ環境にいても高齢者の方が熱中症になりやすいのはこのためです。加えて高齢者は暑さやのどの渇きを感じにくく、水分を十分に摂ることが難しいこともわかっています。また、高齢者は、心機能や腎機能が低下しがちなため、熱中症になった時の症状がより重篤になりやすい傾向にあります。▼十分な水分補給・休憩・睡眠・塩分を取り、体調管理をしていきましょう。